

学校教育目標：光と恵みと力の旭南 ～「旭南行動人」の実現を目指して～



校報 旭南

第4号

秋田市立旭南小学校

令和6年6月28日

文責：校長 木谷光男

見えないものを感じ、思い、見る



6月20日（木）21日（金）、宮城県仙台市および岩手県平泉町に6年生が修学旅行に出かけました。

テーマは「仲間と楽しく助け合い ふるさと見つめる一流の旅」でした。前日の結団式では、「一流」、そして、しおりの内容にあった「旭南小学校の顔」になるための、2つのキーワードを子どもたちに伝えました。それは、「相手の気持ちを考えること」と「感謝の気持ちを表すこと」でした。この2日間は、キーワードが子どもたちの実際の姿に表れ、心温まる旅となりました。

＜うみの杜水族館巨大水槽の前に オー！＞

【エピソード1：ありがとう】

宿泊先。女子は8階の部屋。男子は5階の部屋が割り当たっていました。エレベーターの台数と子どもたちの人数から、移動にかかる時間を短縮するために、男子は館内にある非常階段を利用することになりました。各階への入口は、重い非常扉で閉められています。私が5階に着くと、一人の子どもが、扉を開け、閉まらないように押さえているのでした。そして、子どもたちから「ありがとう。」の声。もし一人毎に扉を押さえていたらどうなったでしょうか。通りにくく、時間がかかった上に、扉の重さで危険も出てきます。その後、何度もこのルートを利用することになりましたが、毎回違う子どもが、扉を押さえ、「ありがとう。」の声がひっきりなしに聞こえていました。

【エピソード2：気持ちいい】

入浴は決められた時間内での本校児童の貸し切り。男子の脱衣所には100を超える脱衣籠が裏返しに準備され、整とんされた気持ちのよい空間となっていました。子どもたちは、脱衣籠を表にし利用しました。入浴後、最後の一人になった脱衣所の子ども。自ら、まだ裏にされていない脱衣籠を裏にしていました。誰もいなくなった脱衣所は「来た時よりも美しく」なっていました。子どもたちの後に利用した方は、きっと、子どもたちと同様の気持ちになったことでしょう。

【エピソード3：安心】

子どもたちが楽しみにしていた遊園地。入園直後に行った学年記念写真撮影。その後、いよいよグループ別自由行動。心弾んでいた矢先、転んで肘を擦りむいた子どもがいました。手当てをしましたが、子どもの顔はこわばり、目を真っ赤にしていました。多数のグループは、すでに園内に散らばっていました。うつむき加減にグループに戻ると、「大丈夫？」と、顔を覗き込みながら小声で語りかける友達。その言葉に安心したのでしょう。上げた顔は、もう普段と同じになっていました。 次のエピソードは裏面に



＜ベニーランド テレコンバット乗車 爽快！＞

【エピソード4：うれしい】

夕食・朝食はバイキングでした。バイキングの一つのルールとして、「残さずに食べる」ことがあります。「残さず食べることで感謝の気持ちを伝えましょう。」という先生の声を受け止めた子どもたち。子どもたちの食器からは食べ物がなくなり、きれいになっていました。子どもたちの食事に携わったホテルの方は、うれしい気持ちになったに違いありません。

【エピソード5：助かった】

2日目の昼食。「ガラガラガラガラ。」食器が床に落ちる大きな音に驚き顔を上げると、頭を下げる店員さん。店員さんが食器を運ぶ際に落としてしまったようでした。すると、一人の子どもが、すっと席から立ち上がり、落ちた食器を拾う姿。すると、それを見た数人がさらに駆け寄り食器を拾う姿。店員さんとの会話は遠くからで、聞き取ることはできませんでしたが、「助かったよ。ありがとう。」が聞こえてくるようでした。

友達やホテルの人などの相手の気持ちや、見えるものの陰にあること、それまでのことは、目には見えません。しかし、思うこと、見ようとすることはできるのではないのでしょうか。そのような気持ちをもつことで、自分自身の言動が変わってくるのではないかと思います。

見えない相手の声「ありがとう」「うれしい」が聞こえてきそうな、「一流」であり、「旭南小学校の顔」として旅をしてきた6年生を誇らしく思う2日間でした。日常にはたくさんの心温まる子どもたちのドラマがあります。それを見取って、称賛していきたいと思います。



習うより慣れる

＜科学館 働くことの魅力を教えてください！＞



「うまいかない!」「どうやったらいいの?」子どもたちの心の叫びが聞こえてきそうでした。5年生の家庭科の一場面。子どもたちは、生まれて初めて玉結び、玉止めに挑戦していました。玉結びが成功した子どもたちの次の挑戦は、布に針を通しての玉止めです。教科書の写真やモニタでの動画で仕方を何度も確認しながら進める子どもたち。しかし、どのくらいの力で布や針を押さえるとよいのかわかりません。そして、右手で針を布から抜くことに意識が向くと、針を押さえていた左手が離れてしまいます。

＜初めてのソーイング玉止め 真剣＞ 子どもたちは、何度も失敗しながら、しかし、あきらめずに挑戦していました。そして、次第にコツをつかんでいきました。うまくできた子どもは、うれしさのあまり「先生!」と駆け寄っていました。コツは自分で感じ取るしかありません。近道はありません。あきらめない心が物事を身に付けさせます。

小さくても大切な命



「2匹目が生まれたよ。」3年生の教室を訪れた時、子どもたちが生き生きとした声で伝えにきました。今度は、前庭に行って放すことを話してくれました。その後、担任と話をすることがあり、前庭で放すことになったいきさつを聞くことができました。1匹目は教室のある2階の窓から外に放したところ、羽が十分に乾いておらず、下に落ちてしまったとのこと。この配慮に子どもたちの命を大切に作るやさしさを感じました。

八橋にある日吉八幡神社から依頼があり、子どもたちが願い事を短冊に書きました。短冊は、祭当日の7/6(土)～13(土)まで神社内に飾ります。

